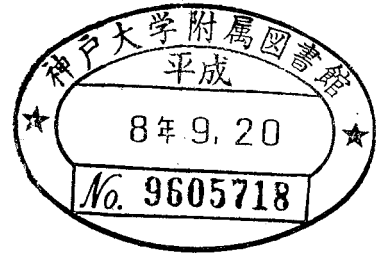


# 巻頭言

ゴー 地鳴りとともにやってきた大地震  
 誰もが予想すらしなかった揺れだ  
 街は瓦礫の山と化し多くの人命が失われた  
 多くの人が住居をそして職場を失った



家を失った人たちでごったがえす学校  
 しばらく茫然自失であった人たちも  
 生活のそして街の再建に乗りだした  
 人間疎外や利己主義の風潮が叫ばれて久しい現在  
 助けあいを通してほんものの優しさや思いやりに出会う  
 心のなかに表現のできない熱い思いが走る

夢野台高校の生徒は全員無事だった  
 あの惨状のなかまさに奇跡だ  
 それどころか多くの生徒がボランティア活動に従事し  
 救援物資の確保と友の安否確認に東奔西走していた  
 なんてすばらしい若者たちだろう

喉もとを過ぎれば忘れてしまうとよく言われる  
 これは人間の弱さかもしれない  
 でも私たちはこの震災を決して風化させてはいけない  
 いつまでも語りついでいかねばならない  
 この冊子は永遠の“語りべ”にしたい

00096057185

## 目次

・巻頭言	1
・あいさつ	2
・学校の動き	7
・生徒の作文（全62編）	12
・職員等の感想（全9編）	69
・夢高通信	84
・各種の経済的援助	90